

平成21年度 お茶の水女子大学経営協議会（第4回）議事録

日 時：平成22年3月15日（月）15：00～17：00

場 所：お茶の水女子大学 大学本館2階 第一会議室（213室）

出席者：（学外委員）足立委員、阿部委員、生駒委員、小野委員、北村委員
（学内委員）羽入学長、江澤理事、戒能理事、耳塚理事、河村理事、
近藤副学長、吉田副学長
（その他）桐村監事、山田監事、村田財務室長、最上総合評価室長

1. 開会

○学長より、最近の国立大学法人が置かれている状況について、国立大学協会総会で取りあげられた政策的な課題などを中心とした報告があった。また、総務機構長からは、2月10日（水）に実施された内閣府による「市場化テスト」のヒアリング、3月8日（月）に実施された文部科学省高等教育局国立大学法人支援課との「組織及び業務全般の見直し状況」に係る意見交換について、報告があった。

2. 前回〔平成22年1月25日（月）〕議事録（案）の確認

○修正等がある場合は、本日から一週間位までの間に、企画チームまで連絡することとした。

3. 審議事項

（1）平成22年度 年度計画について

○総務機構長より、平成22年度年度計画（案）について、【資料3-1】～【資料3-3】に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

（2）平成22年度 学内予算について

○総務機構長より、平成22年度学内予算（案）について【資料4-1】及び【資料4-2】に基づき、支出予算の事項ごとのポイントを中心とした説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

（3）役職員の給与支給基準等の見直しについて

○総務機構長より、役職員の給与支給基準等の見直しについて、【資料5-1】及び【資料5-2】に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(4) 科目等履修生に係る入学料の見直しについて

○教育機構長より、科目等履修生に係る入学料の見直しについて、【資料6】に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(5) 授業料免除の見直しについて

○教育機構長より、授業料免除の見直しについて、【資料7】に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(6) 学位論文審査手数料および心理相談料の見直しについて

○教育機構長より、学位論文審査手数料および心理相談料の見直しについて、【資料8-1】～【資料8-3】に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(7) 学生寮に係る規程の制定について

○教育機構長より、学生寮に係る規程の制定について、【資料9】に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(8) 保育所規則の見直しについて

○教育機構長より、保育所規則の見直しについて、【資料10-1】及び【資料10-2】に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

4. 報告事項

(1) 育児支援奨学金の支給額の改正について

○教育機構長より、育児支援奨学金の支給額の改正について、【資料11】に基づき報告があった。

(2) 予約型奨学金制度について

○教育機構長より、あらたに募集を開始する新しい奨学金制度について、【資料12-1】及び【資料12-2】に基づき報告があった。

(3) 競争的資金等の受入状況について

○国際・研究機構長より、平成21年度の最終的な競争的資金等の受入状況につい

て、【資料 13】に基づき報告があった。

(4) 平成 22 年度入試の実施状況について

○教育機構長より、平成 22 年度入試の実施状況について、【資料 14-1】～【資料 14-5】に基づき報告があった。

(5) 平成 21 年度における本学の主な活動について

○学長及び学術・情報機構長より、本学が平成 21 年度に開催したシンポジウム・講演会等のイベントや、各種受賞についてまとめた、【資料 15】について報告があった。

■ 学外委員からの主な意見は以下のとおり。

・経営協議会委員在任中、年々とても経営的にも難しくなっているということを実感した。今後、寄付の問題が大事だが、卒業生が、自分たちの学校を支え続けるという意思が持てるような仕組みが欲しい。また寄付金の使用目的を明確に示すことが必要である。

・私学と国立では、だいぶ議論の内容が違っていると感じている。一つの枠の中で、また、国の予算が毎年減っているという中で、どうやって教育の質を引き上げていくのかということが一番重要である。

「女子大学」というブランドを維持しながら、どのようにブランド力を向上させていくのが大変重要なことである。また、受験者の増加を図るためには、積極的に打って出るようなブランド政策を考えていかなければならない時期を迎えている。

・国立大学は法人化後、大変厳しい状況に置かれている。今のように 47 万円程度の研究費で研究をやれということでは、マクロな政策もそろそろ転換しなくてはいけない。

お茶大はぜひ、教育の点で模範となつて、日本のリーダーシップを発揮する人材を育て、リベラルアーツ教育を発展させていきたい。

以 上